

不登校に対する学校の取り組み

不登校への対応にあたっては、不登校状態にある子どもや保護者の内面に目を向けるとともに、子どもの社会的自立を図るという視点から、学校全体として取り組むことが必要です。その際、不登校に対する基本的な考え方や対応する上での基本的な視点に立って、学校の実態に即した組織的な取り組みを具体的に考え、実践していく必要があります。

〔学校が組織体として一致協力して取り組む〕

不登校の子どもの内面に寄り添うとともに、子どもや保護者が求めていることを的確にとらえ、全教職員が組織的に支えていくことが大切です。学校が組織体として一致協力して取り組むことが、不登校への対応をより効果的なものにします。

〔不登校の状況や、その要因・背景に応じた適切な対応を進める〕

不登校については、画一的な不登校像を描いて対応するのではなく、一人一人の子どもの状態に応じた取り組みが必要です。不登校の状態は、時として変化することもあります。継続的な情報収集による子ども理解をもとに、適切な指導・援助を行うことが大切です。

〔不登校解決に向けた、連携ネットワークづくりを進める〕

学校だけでは対応しきれない場合や、関係機関等との連携を行ったほうが望ましい場合があります。学校・家庭・関係機関等が、子どものよりよい成長・発達のために、自らの果たすべき役割を担いつつ、積極的に連携・協力していくことが大切です。

〔魅力ある学校づくりを進める〕

不登校をなくし、子どもにとって「魅力ある」学校を実現することが大切です。子どもが主体的に登校し、自分らしさを発揮して活動することができる「魅力ある」学校にするために、きめ細かく柔軟な取り組みを日常的に実践することが重要です。

